



CFTC建玉報告:円/ドル、ユーロ/ドル(9月25日時点)

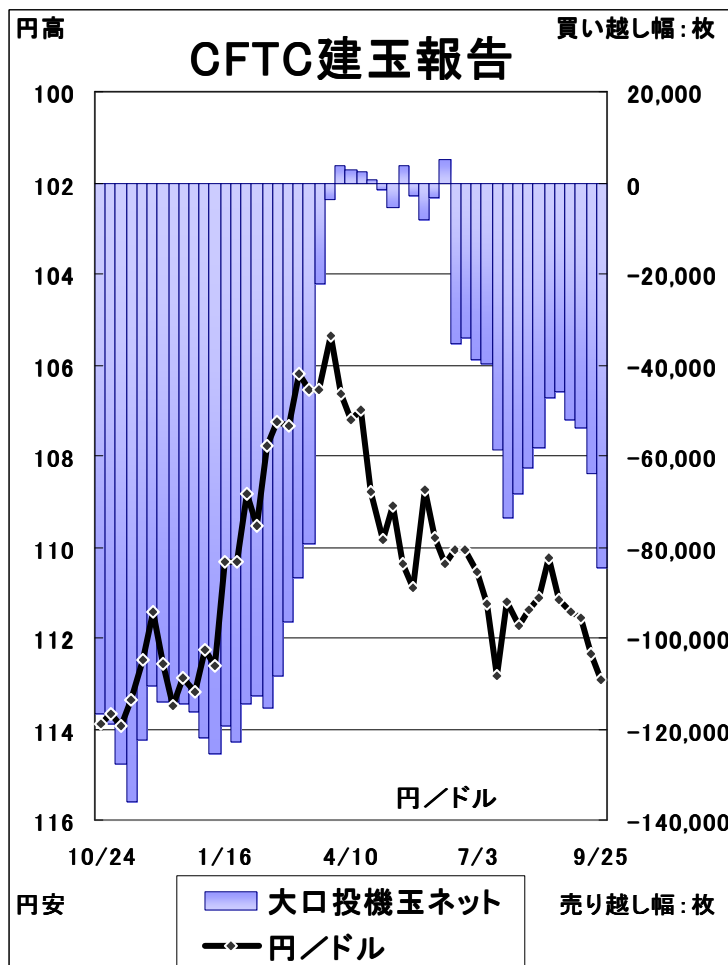
米商品先物取引委員会(CFTC)が9月28日に発表した建玉報告によると、25日時点のシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)IMM通貨先物円(対ドル)相場の大口投機筋(非商業部門)の売越幅は、8万4719枚となり、前週比2万0964枚拡大。投機筋は買いポジションを減らし、売りポジションを増やした。

期間中の円(対ドル)は軟調。トランプ米政権は24日、中国による知的財産権侵害を理由とする第3弾の制裁関税措置を発動した。即時に報復措置に踏み切った中国は、対米貿易摩擦に関する白書を発表して「米国は経済的などう喝を続けている」と強く反発。中国は今週予定された閣僚級協議の開催を拒否したといい、対立解決の糸口が見えなくなる中、安全資産として円が買われる場面もあった。しかし、25日、26日開催の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利上げ見通しや、米中が互いに相手国に対して表明した最新の貿易制裁措置が、世界の経済成長を損ねる可能性は非常に低いとの投資家の見方が、ドルの上昇を主導。中国政府が国内の消費拡大に向けた措置を講じる方針を示したことも、円安ドル高要因となった。

期間中のユーロ(対ドル)は上伸。大口投機玉の買越幅は3696枚となり、前週と比べ2030枚拡大。

欧州中央銀行(ECB)のドラギ総裁は欧州議会で24日、ユーロ圏の基調的なインフレの加速は「比較的旺盛」だと予測したことを受け、対ドルでのユーロは1.17ドル台前半から1.18ドル台前半へ上昇し6月14日以来の高値を付けた。ただ、その後はECBの主任エコノミストのプラート専任理事が25日、金融政策の正常化ペースが6月の予測より速くなることはないとの見解を示したことで、1.17ドル台半ばへ押し戻された。

日付	円/ドル		ユーロ/ドル	
	終値	枚数	終値	枚数
05/29	108.75	-8,036	1.1535	93,037
06/05	109.79	-3,437	1.1715	89,236
06/12	110.38	5,052	1.1744	88,225
06/19	110.08	-35,562	1.1588	36,118
06/26	110.07	-34,221	1.1646	33,904
07/03	110.57	-38,730	1.1658	36,747
07/10	111.26	-39,832	1.1747	24,357
07/17	112.85	-58,650	1.1662	21,407
07/24	111.19	-73,769	1.1682	29,640
07/31	111.75	-68,457	1.1696	22,825
08/07	111.37	-62,807	1.1598	10,565
08/14	111.14	-58,368	1.1343	-1,789
08/21	110.22	-47,406	1.1571	-4,841
08/28	111.17	-46,041	1.1694	-7,219
09/04	111.45	-51,932	1.1582	7,963
09/11	111.56	-53,886	1.1606	11,170
09/18	112.33	-63,755	1.1667	1,666
09/25	112.94	-84,719	1.1766	3,696
前週比	0.61	-20,964	+0.0099	+2,030



第一商品株式会社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町9番1号 神泉プレイスビル フューチャーズ・24

このレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので投資勧誘を意図するものではありません。投資の最終的な決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い致します。レポートに記載の内容等は作成時点のものであり、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく修正、変更されることがあります。商品先物取引業者 日本商品先物取引協会会員 当社お客様相談窓口（東京・本社）0120-770-266、日本商品先物取引協会相談センター東京本部 03-3664-6243。